◇委員の紹介◇

関西学院大学商学部教授

阪　智香

このたび、サステナビリティ基準委員会（SSBJ）非常勤委員を再任させていただくこととなりました、関西学院大学商学部の阪智香と申します。川西委員長をはじめ委員の皆様と力を合わせ、資本市場の健全な発展と経済社会のサステナビリティの実現に向けて、引き続き尽力してまいる所存です。何卒よろしくお願い申し上げます。

2025 年 3 月に SSBJ 基準が公表されるに至るまでの 3 年間、設立準備委員会の段階を含め、議論に参加させていただきました。その間、サステナビリティ開示基準の開発という新たな挑戦において、異なるステークホルダーの立場にある委員の皆様と、サステナブルなビジネス社会の構築に資する良質なインフラとしての基準を作るという共通の意識をもって作業に取り組むかけがえのない経験をさせていただきましたことに、心より感謝申し上げます。

また、委員会での議論に加え、公開草案等に対して広く寄せられたご意見からも、これまでの自分にはなかった視点や新たな学びを数多く得ることができました。

今後、サステナビリティ開示の実務が広く浸透していくにあたり、本基準が何を目指し、なぜその開示や判断が求められているのかについて、社会全体で広く理解されることが非常に重要だと感じています。既存の財務情報と、サステナビリティ開示基準が対象とするサステナビリティ関連財務情報は、ともに財務報告の一部ではありますが、それぞれ固有の目的を担い、提供する情報も異なるからです。

サステナビリティ関連財務情報は、既存の財務情報と比べてより定性的であり、長期的な将来予測や見積りを含むとともに、バリューチェーンの視点も内包しているなど情報の境界（バウンダリー）にも違いがあります。このような不確実性を伴う中で、サステナビリティ関連のリスクと機会の識別、重要性の判断、投資家の意思決定に有用な適正な表示、情報のつながり、合理的で裏付け可能な情報などに関して、従来以上に高度な判断が求められます。

だからこそ、基準の目指す方向性や基本的な考え方に照らして判断できることは、サステナブルな社会の実現に向けた価値を創造するビジネスモデルを築くうえでの近道となると信じています。また、今後新たなテーマが取り扱われる場合でも、基準の基本的な枠組みや考え方は変わらないと考えています。

会計はビジネスの言語です。このたび、サステナビリティが会計言語の中に組み込まれたことにより、企業、投資家、そしてそれに連なるステークホルダーが、それぞれの立場からレジリエント（強靭）な経済の構築に貢献できる社会が、いままさに訪れようとしています。

このサステナビリティ開示基準は、社会関連会計や環境報告を含む半世紀にわたる歴史と実践の積み重ねの上に築かれたものです。これまでこの分野を切り拓いてこられた先人たちの志とご尽力に、あらためて深い敬意と感謝を申し上げるとともに、委員の皆様とともに、わが国の資本市場の健全な発展と経済社会のサステナビリティの実現に向け、微力ながら引き続き尽くしてまいりたいと存じます。

今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。